



カタログ販売で被災農家を支援

千曲川氾濫

台風19号で被災した北信濃の農家を支援しようと、県内出身や在住の有志が「北信濃農業復興プロジェクト」を立ち上げた。カタログ通販の「地元カンパニー」(上田市)を通じ、農家が来年収穫するリンゴなどの予約を12月から受け付ける。被災地のために何かしたいという思いと被災農家とを結び、息の長い支援につなげる試みだ。

下高井郡山ノ内町出身で農産物を使った商品開発の助言などを行っている山岸直輝さん(29)は東京IIが中心となって呼び掛けた。実家はリンゴ農家。長野市赤沼の被災地をボランティアで訪れ、出荷間近で水に漬かったリンゴなどの処分を手伝った。広範囲に及ぶ被害を目の当たりにし、復興に多くの人を巻き込む仕掛

リンゴなど予約募る「プロジェクト」

営農継続へ 活動息長く

けづくりを思い立った。

かつて働いていた地元カンパニーと連携で一致。東日本大震災などの被災地の産品を集めたカタログギフトに、新たに北信濃の産品を加えることになった。プロジェクトが出荷を希望する農家を募り、カタログギフトの受注に応じて出荷量を割り振るなどの調整を担当。出荷量に応じた代金を農家に配分する。

出荷農家は今のところ十数軒が手を挙げている。同市豊野町豊野の宮下直也さん(32)は、家族で営むリンゴ畑の半分以上、約1畝が浸水。今年の出荷を一部断念した。農業を続ける決意だが、周囲には今後について悩む農家もいるという。「あちこちで果実がたわわに実る光景を取り戻したい」と話す。

プロジェクトを通じて来年分の出荷を確保することで、「被害農家に営農を続ける意欲を持ってもらえればうれし」と山岸さん。今後は北信地方の農産物を使った商品開発や被災地復興ツアーなども計画する考えで、「市町村の枠を超えた支援に広げていきたい」と話している。

プロジェクトに参加する宮下さん。果樹園約1畝が被害に遭ったII13日、長野市豊野町豊野

小布施の農地で800人が作業



被災した実をもうで落とすボランティアからII23日午前10時10分、小布施町

千曲川の氾濫で一面に湿った泥がたまり、厚さ30センチほど堆積した場所も。参加者は水に漬かって枝に付いたままのリンゴの実をもちぎ、地面に落とす。栗の枝に引っかけた枯れ草やプラスチックなどのごみも一つ一つ集めた。

伊那市伊那小4年の唐木諒君(9)は、被災した長野市長沼小に学校を通じてぞうきんを送ったことからボランティア作業もしてみたいと参加。「泥がすごくてびっくりした。同じ長野県だから支援したい」と張り切っていた。

町によると、今後は町民らが中心になってボランティア作業を続ける。

で活動するボランティアの安全祈願などに触れた読み上げ

善光寺で追悼と復興祈願の法要

長野市の善光寺で23日、台風19号災害の犠牲者を追悼し、被災地の復興を祈願する法要があった。天台宗、浄土宗の一山住職15人が本堂で般若心経を唱え、60人ほどの参拝客も祈りをささげた。

「被災して苦しんでいる人や亡くなられた人に善光寺として気持ちを示したい」と同寺。読経の合間には、被災地



もあった。善光寺ホームページで告知を見て訪れた人や観光客も参列し、住職とともに読経する人の姿もあった。小林順彦寺務総長は「自宅や墓を流された方々は心細さが募り、苦しんでいる。早く普通の生活に戻ってもらえるよう祈った」と話していた。

台風19号の犠牲者の追悼と復興を祈願し、般若心経を唱える住職たちII23日、長野市の善光寺